

1 . 調 査 報 告 概 要 表

作成日 平成 2 1 年 5 月 1 2 日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2 7 7 0 1 0 4 8 4 8
法人名	社会福祉法人 南の風
事業所名	グループホームアル・ソーレ
所在地	堺市堺区甲斐町西 2 丁 1 番 1 5 号 (電 話) 0 7 2 - 2 2 2 - 2 2 6 2

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺 1 丁目 1 番 5 4 号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 2 1 年 4 月 1 7 日

【情報提供票より】(平成 2 1 年 3 月 1 6 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 1 5 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	1 8 人
職員数	1 6 人	常勤 1 3 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	1 5 . 2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	地下 1 階地上 7 階建ての	5 階 ~	6 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000円(共益費含)		その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(225,000円) 無		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600円			

(4) 利用者の概要 (平成 2 1 年 3 月 1 6 日現在)

利用者人数	1 8 名	男性 2 名	女性 1 6 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	5 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 8 6 歳	最低 7 8 歳	最高 9 2 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人仁悠会 吉川病院、恒久会歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ひだまり」を意味するグループホームアル・ソーレは、特養・デイサービスに併設された 2 ユニットの事業所です。事業所周囲や屋上、ベランダには樹木や花が植えられ、居室は広く明るく清潔で、常に外気に触れ市街地を見渡せるロケーションとなっています。ベランダにベンチやテーブルを持ちだし食事をすることもあります。格子戸の玄関、障子、電気の笠、カーテンなど一つひとつが快適に過ごせるように工夫されています。居室からもベランダへ自由に入出入りすることができます。「その人らしい人生を全うしていただけるように」との理念のもと、無理強いすることなく利用者一人ひとりの思いや希望を大切に支援していることが利用者の笑顔、職員との会話から感じ取ることができます。利用者一人ひとりの持つ力や楽しみを大切にしたい関わりが、電車での外出や一泊旅行、映画館や喫茶店でのひと時などの取り組みへとつながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目：外部 4)
	前回の外部評価結果は、ホーム内に閲覧できるように設置し、市や運営推進会議等でも報告しています。前回の改善点として、研修報告書を全職員が閲覧したことを示す確認のサインについて改善が進み、確認のサイン欄を設け、各自がサインを行っています。また、全職員が必要な情報を共有しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部 4)
	自己評価の意義を理解しており、職員全員で取り組んでいます。また、外部評価結果を真摯に受けとめ、よりよいサービスを目指し改善に取り組んでいます。グループホーム外部評価の基準より、さらに利用者にとってどのようなサービスが必要なのか、質の向上に向けて常に話し合いを重ねています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部 4, 5, 6)
	運営推進会議は運営規程を作成し、2 ヶ月に 1 回定期的に開催しています。ホームの活動内容や行事予定、入居希望状況、管理者の就任報告とともに地域包括支援センターの活動や地域の活動など情報交換が行われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部 7, 8)
	ホーム内に意見箱を設置するとともに、家族の訪問時には利用者の様子を伝え、意見を聞くように努めています。家族の行事への参加を機会に職員から積極的に関係を構築し、話しやすい雰囲気作りに取り組んでいます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部 3)
	小学生の社会体験の受け入れや大正琴・舞踊等のボランティア受け入れなど、地域との交流を積極的に行っています。日常的に散歩や買い物に出かけ、地域住民と顔なじみの関係を構築してきました。地域のボランティアが行っている喫茶へ参加するなど連携を図っています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外 部	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けるこ とを支えていくサービスとして、事業所 独自の理念をつくりあげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよ う、私たちはプロとしてお手伝いいたします」 を理念に掲げ、介護者の価値ではなく利用者一 人ひとりのその人らしさを重視し「どのように 暮したいか」「望む人生を全うできるように」管 理者、職員は取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員や家族が見える場所に掲示してい ます。理念を具体化するために「日々楽しんで もらっているか」「利用者が納得したうえでのか かわりになっているか」「自己決定できている か」など理念の実践に向けて話し合われていま す。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に務めている	開設時より地域の施設として積極的に働きか け、関係が構築されてきました。自治会への加 入、小学生の社会体験の受け入れ、バザーへの 協力、夏祭りなどの行事への参加、地域のボラ ンティアが開いている喫茶の常連客にもなり、 地域住民との交流を図っています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員間で共有するために全員で取り組んでいます。外部評価結果は、いつでも誰でもが閲覧できるようにフロアの玄関にあります。また、外部評価結果を真摯に受けとめ、よりよいサービスを目指し改善に取り組んでいます。評価の基準よりさらに利用者にとってどのようなサービスが必要なのか、質の向上に向けて常に話し合いを重ねていることも伝わりました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の規程を作成し、2ヶ月に1回、民生委員、地域包括支援センター職員、家族などの参加のもと実施され記録に残っています。ホームの活動報告や意見交換が行われ、家族の要望でエプロンに職員の名前をつけるなど、家族の声が活かされています。また、会議での話し合いが、地域の防災対策や介護保険情報などの発信の場、家族、地域、行政の交流の場にもなっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価結果は市へ報告しています。必要に応じて事故報告をしていますが、開設後、報告するような大きな事故もなく経過しています。管理者研修会の運営委託を受けるなど、市とともにサービスの質向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理の収支報告とともに利用者の受診結果やホームでの様子を担当職員が個別で手書きし、便りと共に送付しています。金銭出納簿には、家族のサインも取得しています。職員の異動があった場合にはお便りに写真入で紹介し、フロアにも掲示するなど家族に安心していただけるように配慮しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族と話し合い、利用者の様子を報告し、苦情や意見を表出できる関係作りを心がけています。「利用者や家族の声を大切にしたい」との思いが職員の会話からも伝わります。意見箱を設置し、意見が出た場合は会議等で話し合い、運営に反映しています。家族からの意見反映の一つとして、職員のエプロンに名前をつけることになりました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時から職員の退職、異動が少なく利用者や家族の安心に繋がっています。管理者は離職を最小限にしたいとの意識も高く、同法人内での異動の場合は、異動した職員が馴染みの利用者を訪問するなどダメージを少なくする配慮をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設と共同し、内部研修や外部研修への参加、伝達講習などを実施し、参加できない職員へは資料配布やクイズ形式での学習会への参加など興味を持つような工夫をしています。管理者も職員に対して積極的に外部研修等への参加を奨励しています。虐待、感染症、褥瘡委員会などを立ち上げ研修会を実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しています。行政からの委託もあり、管理者研修会を実施するなど同業者との交流の機会となっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居待ちの間、併設のデイサービスを利用し、デイサービスを利用している人が入居に至るなど、雰囲気になじみながらの入居に繋がっています。環境に慣れるまでは家族と一緒に泊まる場合もあり、安心してホームでの生活に馴染めるよう家族と相談しながら利用者に合わせた対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	無理強いすることなく、利用者のペースに合わせた生活を支援しています。食事場面での利用者と職員の会話や利用者の笑顔、時には表情が陰しくなる場合もあります。しかしその方の感情を受け止めながら手を握り、話をするなど職員は穏やかな気持ちで利用者との関係を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情、生活場面での関わりや家族からの情報を得て、利用者一人ひとりの思い、希望、嗜好、趣味などを把握し記録しています。これらの情報により、孫の結婚式への参加や一泊旅行など利用者の希望を聞き対応しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が数名で利用者を受けもち、利用者や家族の思いを把握するとともに日々の様子を計画作成担当者と話し合い、情報の共有とともに介護計画に反映しています。また、利用者や家族から確認のサインを得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月チームでカンファレンスを行い、6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っています。日常生活の様子や会話等で得られた情報、介護計画の結果が家族にもわかるよう、記録を工夫しています。今後、利用者の生活歴や介護計画、日々の記録が個別ファイルにまとめられ、全体像が分かるようになれば、さらに職員間の情報共有や家族、利用者への情報公開にも繋がるのではないのでしょうか。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別養護老人ホームやデイサービス、訪問看護などの併設施設での事業を活かしたさまざまな取り組みが行われています。例えば、同じ法人内の建物の中にある喫茶室の利用、利用者や家族の要望に応じての通院支援、また、家族の宿泊も可能です。孫の結婚式に施設の車を利用し職員が付き添うなど、事業所の設備や人的環境を利用した柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の体制も整っており、早期発見、早期治療による短期入院で済むよう、早期対応を心掛けています。医療機関の選択は、利用者や家族の希望を第一とし、入居前からかかりつけの医療機関との連携を大切にしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については対応指針を明文化しており、医師、看護師、職員、家族、利用者と話し合いホームで対応できる範囲について示し、その都度方針を確認しています。終末期についての学習会も実施し、グリーフケア（悲嘆の表現として現れる様々な感情や行動などを、正常なものとして、共に受けとめること）についても取り組んでいます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎年、守秘義務や個人情報の扱いについて学習会を実施しています。部屋の出入りや排せつ時の対応など、なれ合いにならないようにと職員は、常に意識をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はある程度決まっていますが、利用者の気分やペース、体調にあわせて臨機応変に対応しています。職員からも、天候をみながら近隣への散歩や買い物も声かけしています。魚つりや喫茶店でコーヒーを楽しむなど、利用者の希望に合わせ、その人らしい暮らしの支援を大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や状態に応じて、刻み食やとろみをつける等に対応しています。とろみの苦手な利用者には寒天を使うなど個別対応を行っています。食事は併施設からできあがったものが届きますが、職員とともに数名の利用者がキュウリを切り、盛り付けや片付けを行うなどできることへの参加を支援しています。苺大福や柏餅などおやつ作りもしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて毎日でも入浴可能です。入浴を好まない利用者には、無理強いするのではなく声かけを行いながら、気分が向いたときに入浴できるよう働きかけています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の楽しみや生きがいに繋がる様に興味のある活動に取り組んでいます。家族の来訪時に使用できるよう、利用者が指編みの座布団作成に取り組んでいます。写経や粘土細工での作品作り、大正琴や舞踊などのボランティアとの交流も楽しみにつながっています。広いベランダでのお花づくり、映画館へ行くなど、様々な取り組みをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候をみながら、近隣の公園や商店街などに日常的に外出しています。4月は近隣へ花見に出かけました。車いすでも個別で外出し、外気に触れる機会や季節を感じられる取り組みをしています。ドライブなども楽しんでいます。春のお出かけデーには、利用者に合わせたコース（公園、水族館、温泉レジャー施設、映画館等）を設定し、利用者の希望に合わせて外出の支援を行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアの玄関扉が開くと音が鳴るなどの工夫で利用者の行動に配慮し、安全に留意しながら鍵をかけない自由な暮らしを支援しています。エレベーターも自由に使用できます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時マニュアルを作成しています。消防署の指導を受け、地域の協力を得ながら利用者が参加し、年に2回、日中と夜間を想定して避難訓練を行っています。災害に備えて、水や食品など非常食料・備品などを約3日分備蓄しています。実践に備えて飯盒炊飯や非常食の試食など、積極的に災害対策に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の管理のもと、1日1700キロカロリー前後のバランスを考えた食事とおやつが提供されています。利用者一人ひとりの食事摂取量や水分量を把握し、記録に残しています。午前・午後のティータイムの時間には積極的に水分摂取を勧めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関は格子戸で、フロアの空間は広くゆったりしており、季節を感じさせる装飾が施されています。清潔で利用者が落ち着いて過ごせるように間取りやトイレの配置、和の雰囲気など随所に配慮がみられます。廊下の数か所にソファを配置し、利用者や家族がゆったりと座って話をしています。ベランダも広く居室やリビングから自由に出入りでき、樹木が植えられ花が咲き、テーブルを持ち出して外気に触れ市街地をみながら食事をする場所にもなっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子のある和室や洋室があり、ペランダには自由に出入りができ、居室内には洗面所が設置されています。冷蔵庫、テレビ、たんす、仏壇、椅子、テーブルなどの持ち込みは自由です。家族の協力を得て、自宅を再現できるように心がけています。利用者一人ひとりの居室の雰囲気が異なり、電気の笠やカーテンなど、その方らしい居室を構えています。		